

やめよ! 徳山ダム

徳山ダム建設中止を求める会通信

No.90 (2011.7.7)

事務局 TEL/FAX 0584-78-4119

大垣市田町1-20-1 近藤方

結局は政策転換できない「再検証」という枠組み

昨年9月28日付け国土交通大臣指示(要請)により、全国84事業で「臨時的にかつ一斉に行うダム事業の再評価を実施」しています。幾つかの事業について、検討主体からの「報告」が「今後の治水対策のあり方に関する有識者会議」(以下「有識者会議」という)に出され始めています。すでに実質的に中止となっているものを除いては、「(ダム等)事業継続が妥当」とされたものばかりです。「有識者会議」はこれらの「報告」を、あれこれ評論はしても結局は追認してしまっています。

この「再検証」の枠組みそれ自体が、こうした結論へと誘導しているのです。2009年12月に不可思議な人選で密室会議として設置された「有識者会議」。そこでさえも規約には『できるだけダムにたよらない治水』への政策転換を進めるとの考えに基づき、今後の治水対策について検討を行う際に必要となる、幅広い治水対策案の立案手法、新たな評価軸及び総合的な評価の考え方等を検討するとともに、さらにこれらを踏まえて今後の治水理念を構築し、提言することを目的とする」とあります。

ところが昨年9月27日付のこの「有識者会議・中間とりまとめ」を受けた形となっている翌9月28日の国土交通大臣指示(要請)及びマニュアル(=「ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目」)には、『できるだけダムにたよらない治水』への政策転換という言葉は一言もありません。政策転換抜き、あくまでも現行の河川整備計画を尊重する、というなら「現行河川整備計画に位置づけられているダム案が最適」になってしまうのは当然でしょう。つまりこの「臨時的にかつ一斉に行うダム事業の再評価=再検証」は「やっぱりダムだ」というお墨付きを与える場に化けてしまっているのです。有権者が行った「政権交代」という選択がこんなふうになってしまって良いはずがありません。

★ 木曾川水系連絡連絡(徳山ダム)導水路

～ 初回「検討の場」&パブコメ募集から「複数対策案」って?～

恒例: 徳山村キャンプ 8月20日(土)～21日(日)

20日(土)13時 JR大垣駅北口集合出発、21日(日)の午後の早め帰着。

20日の夕食と21日の朝食の材料、飲み物は準備します。

参加費:3000円

(子供は無料。自分以外の人や荷物を運ぶ方には1000円をバックします)

参加者各自が用意するもの:長袖シャツ、雨具、懐中電灯など。

my箸、myコップ、my皿。寝袋or毛布(できるだけ)。

① 大雨が予想されるときは中止します。予め緊急連絡先を教えてください。

② テント等、ご自分の分以外にもお持ちより頂けるとありがたいです。

③ お申込み・お問合せは、事務局・近藤へ 0584-78-4119 Email: k-yuriko@octn.jp

徳山ダム建設中止を求める会主催のキャンプとしては最終回となります

6月1日、「木曾川水系連絡導水路事業の関係地方公共団体からなる検討の場」の第1回本委員会が開かれ、6月3日から7月2日までパブリックコメントの募集がありました。事業の必要性、費用便益は、議題にも資料にもありません。パブリックコメントのための資料も（ゆえにパブコメ募集の様式も）「複数対策案」だけです。

木曾川水系連絡導水路とは「徳山ダムに係る導水路」であり、徳山ダムの水を木曾川（長良川）に導水する事業です。徳山ダム以外に水源を求めるような利水対策案や治水（流水の正常な機能の維持）対策案に、意味があるでしょうか？ 利水対策代替案として海水の淡水化だとか治水代替案として矢作川水系からの水系間導水だとか・・・明らかにダミー代替案であり、「やっぱり今の導水路計画が妥当だ」と結論づけるためのものでしかありません。

こんなやり方で「やっぱり現計画が妥当だ」と結論づけたところで先立つものは出てこない、本格着工の目処もなく（あったら大変）、いつまでも計画が残り続ける・・・計画が存在するから、というだけ理由で、毎年2億2000万円（＝今年度予算3億5000万円のうちの人件費や事務所経費の分）ずつ費やされていくのではたまりません。

徳山ダムの水はどこも必要としていないのです。要らないものを作ってしまった、そのために巨額のツケを残し、文化も自然も破壊した事実を、行政も市民もしっかり自覚し、反省し、心に刻みつけ、さらなる無駄と自然破壊をきっぱりとやめる選択をするべきです。

★ 内ヶ谷ダム「再検証」の結論は「やっぱりダム」

----- 内ヶ谷ダム再検証をめぐる動き(☆＝岐阜県、●＝長良川市民学習会) -----

☆2010.10.6 岐阜県知事「内ヶ谷ダムを最優先で検討する」と県議会で発言

● 2010.11.24 知事宛「河川行政に関する緊急要請書」(8市民団体)

☆ 2010.11.25 第1回 内ヶ谷ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場

☆ 2010.11.26～12.24 内ヶ谷ダム建設事業の検証に係る意見募集(第1回)

● 2010.12.7～8 長良川中流域調査行(今本博健先生とともに)

● 2011.2.5 シンポジウム 長良川に内ヶ谷ダムは必要か？

基調講演:「内ヶ谷ダムは洪水対策に有効か」ー今本博健京都大学名誉教授ー

● 2011.2.22 知事宛「岐阜県の河川行政に関する要請書」(8市民団体)

☆ 2011.2.28 第2回 内ヶ谷ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場

☆ 2011.3.15～5.6 内ヶ谷ダム建設事業の検証に係るご意見の募集(第2回)

☆ 2011.4.7 内ヶ谷ダム建設事業の検証に係る意見募集に伴う説明会(関市)

☆ 2011.4.21 内ヶ谷ダム建設事業の検証に係る意見募集に伴う説明会(郡上市)

● 2011.4.21 知事宛「内ヶ谷ダム事業の検証にかかる公開討論会の開催を求める」要請

● 2011.5.23 内ヶ谷ダム緊急報告会 (→ 下に)

● 2011.6.9 内ヶ谷ダム予定地現地見学会

☆ 2011.6.10 第3回 内ヶ谷ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場

● 2011.6.15 知事宛「再度、内ヶ谷ダム事業の検証にかかる公開討論会の開催を求める」要請

5月23日 内ヶ谷ダム 緊急報告会

検証主体である岐阜県当局の動きに対応した緊急的にもたれた集会です。宣伝不足の上に月曜日の夜で雨。厳しい条件だったためか、約50名といつもより若干少ない参加者でしたが、

初めての参加者や若い人の参加もあり有意義でした。

この内ヶ谷ダムの「再検証」においても、「再検証」の枠組みそのもの、費用便益を真っ当に検証しない（できない）あり方が厳しく批判されています。

（報告1）ダム検証に異議あり！… 今本 博健 京都大学名誉教授

（報告2）洪水被害額よりも高いダム事業費！？… 富樫 幸一 岐阜大学教授

内ヶ谷ダム
現行計画通り建設
反対派「結論ありき」

「検討の場」
方針案決定

国の補助ダムで、建設見直しの対象となっている長良川流域の内ヶ谷ダム（郡上市）について関係自治体が検証する第二回の「検討の場」が十日、県庁で開かれ、ダムを建設する現行の計画が最も優れているとして、計画通り進めるとの方針案を決めた。（山本真嗣）

議会への説明などを 最終的な方針を決め、秋を経て、古田肇知事が最一に国に報告。国が補助金を出すかどうかを決める。一方、建設に反対している市民団体は「ダム建設の結論ありきの議論」と反発している。

検討では、ダム建設の現行計画について、大雨のときに水をためる洪水対策と、渇水時に川に必要な水を流す流量の維持対策の二つの機能面でそれぞれ代替案をつくり、比較した。その結果、現行計画は、環境面では土砂のたい積や溪流の喪失などですべての代替案よりも劣るとされた。治水、流量維持ともに現行案が最も優れているとした。

代替案は、洪水対策では遊水地や水田貯留を中心とした案や、河道掘削と堤防整備を中心とした案など四案で、流量の維持対策では、ダム以外の水をためる貯留施設をつくる一案。安全度やコスト、環境への影響など七つの視点で比較し、全員がダム案を支持した。検討の場は県とダム建設の影響がある流域の郡上、美濃、関、岐阜の四市と学識経験者らで構成。検討を傍聴していた長良川市民学習会の武藤仁事務局長（左）は「ダム推進の立場の人だけで決まっただけ清流の環境が破壊されたのに、なぜ、またダムなのか」と批判する。反対の立場の専門家を含めた公開討論会の開催を近く県に求めるという。

内ヶ谷ダムは長良川支流の亀尾島川上流に建設予定の治水ダム。総貯水量千五百立方メートルで、総事業費は三百四十億円。二〇一六年度に着工し、二七年度に完成させる案をたたき台に、今後、詳細を決める。

内ヶ谷ダムの完成イメージ図

内ヶ谷ダム建設予定地

郡上市役所

156

郡上八幡IC

吉田川

東海北陸道

長良川

大和IC

ぎふ

尾島川

郡上市

2011.6.11 中日新聞

当会としての活動は、2011年末をもって一応休止とし、「やめよ！徳山ダム」はこの号の後に2回-92号まで一出す予定です。徳山ダムに関連する木曾川水系連絡導水路そして長良川河口堰の運動はますます進展しています。当会メンバーの活動は終わりません。ブログなどで運動の状況を発信し続けますので、今後もご注目下さい。

愛知県「長良川河口堰検証」

2011.6.9 中日新聞

2月の「トリプル選」で、圧勝した大村秀章・愛知県知事は、長良川河口堰開門調査／木曾川水系導水路と設楽ダムの見直し」を河村たかし・名古屋市長との共同公約としていた。当選後、公約実現の動きがなかなか見えない中で、5月11日「導水路はいらぬ！愛知の会」は、共同公約実現を迫る公開質問状を出した。提出日の担当課との話し合いで、何らかの動きがある、という感触を得たが、つまりは、長良川河口堰検証のプロジェクトチーム設置であった。

<愛知県 平成23年5月31日(火)

曜日) 発表 長良川河口堰検証第1回プロジェクトチーム会議と公開ヒアリングの開催及び一般傍聴者の募集について(略) >

☆ 長良川河口堰検証プロジェクトチーム・メンバー

小島 敏郎 (青山学院大学国際政治経済学部教授・愛知県政策顧問) / 蔵治 光一郎 (東京大学愛知演習林長・准教授) / 辻本 哲郎 (名古屋大学大学院工学研究科教授) / 松尾 直規 (中部大学工学部長) / 村上 哲生 (名古屋女子大学家政学部教授)

☆ 長良川河口堰検証公開ヒアリング

<第1回意見陳述者> 竹村 公太郎 ((財)リバーフロント整備センター理事長) / 富樫 幸一 (岐阜大学地域科学部教授) / 田中 豊穂 (中京大学体育学部教授)

<第2回意見陳述者> 秋田 清音 (赤須賀漁業協同組合代表理事組合長) / 大橋 亮一 (サツキマス漁師) / 神谷 明彦 (東浦町議会議員) / 平野 久克 (NPO 法人木曾三川環境保全機構理事長)

第3回の日時については、まだ発表されていない(6日、15時現在)。

第2回の会議・ヒアリングの前日、国交省中部地整が、第1回の富樫教授の資料について「事実誤認」と記者発表をし、ホームページに載せた。富樫教授の意見については今までは無視し続けてきたのだけど…? 行政としては「暴走」である。よほど焦りを感じているのだろうか?

そこまでやるからには中部地整も「言いつばなし」にはしない覚悟があるのだろうか? きちんとした公開討論会に発展することを期待したい。(別紙新聞記事参照)

「やめよ! 徳山ダム」 徳山ダム建設中止を求める会 代表: 上田武夫

公式 HP <http://www.tokuyamadam-chushi.net> 事務局 503-0875 大垣市田町1-20-1

編集責任: 近藤ゆり子 事務局 〒503-0875 大垣市田町1-20-1

TEL/FAX 0584-78-4119 Email: k-yuriko@octn.jp

郵便振替: 00800-7-31632

年会費 1000円 カンパ歓迎

愛知県が長良川河口堰検証

賛成、反対双方訴え

長良川河口堰(三重県桑名市)のゲート開門の是非を検証する愛知県の有識者会議が8日、初会合を開いた。公開ヒアリングでは、河川と環境の専門家三人が賛成、反対の立場からそれぞれ意見を述べた。

会議は青山学院大の小島敏郎教授(国際政治経済学部)が座長を務め、生態学や河川工学の識者五人で構成。専

門家の意見を聞く公開ヒアリングを月一回ほど催し九月末をめどに報告書をまとめ、大村秀章知事に提出する。初の公開ヒアリングでは、元国土交通省河川局長の竹村公太郎氏が「ゲートを開けると塩水が遡上し、閉じた後も河底に塩水が残って酸素が乏しくなり、生態系を壊す」と主張。中京大の田中豊穂と、今後の議論に期待を示した。

大の富樫幸一教授(地理学)が、藻類の増加など環境への影響や水余りを指摘し「堰は開放できる」と訴えた。会場には環境派の市民団体や河川関係者ら七十六人が集まった。大村知事は二月の知事選で、堰の開門調査を公約に掲げている。公開ヒアリング終了後「漁業や環境、水質、治水など、いろんな観点から意見を聞き、なくてはならないのかを含めて検証したい」と

塩害防止に必要／有機汚染進む

長良川河口堰で
公開ヒアリング 賛否3人持論

県庁で8日に開かれ、必要で、海水が堰上た長良川河口堰(三重県桑名市)を検証する。口堰が必要と述べた。公開ヒアリングでは、また利水面で「10年に済成、反対面方の立場から3人が持論を展開した。」

元国土交通省河川局長として河口堰建設を推進した竹村公太郎・リバーフロント整備センター理事長は、水害が相次いだ流域の特徴を踏まえ「水害防止には川底のしゅんせつが



竹村公太郎さん



田中豊穂さん



高橋幸一さん

する研究もある」と危険性を指摘した。

高橋幸一・岐阜大地球科学部教授(経済地理学)は利水の供給能は減少している」と述べた。海水対策で河口堰は必要、との意見にも「10年に1回の濁水にも、農業用水と調整することで十分対応できる」と反論した。

【加藤馨】

2011.06.09
毎日新聞

2011.06.23 中日新聞

愛知県の検証に反論

長良川河口堰 中部地整と「事実誤認がある」
水資源機構

長良川河口堰(三重県桑名市)のゲート開閉ホームページに掲載した大学の是非をめぐる、愛知県の資料に「事実誤認がある」として、記者が有識者会議を設けた。記事によると、記者が有識者会議を設けたのは、八日に開いた県の公開ヒアリングで、ゲート開放を局と水資源機構中部支の反論だが、愛知県側が、自分たちの都合に合わせてデータを操作している。水が余っているのは事実で、誤認でも何でもない。議論なら、いささかでも受けて立つ」と話している。

有識者会議は月一回ほどのペースで続け、九月末をめどに報告書をまとめて大村秀章知事に提出する。

関・今川に清流戻る

関市戸田で長良川導流堤が昨年8月の出水で一部流失して以来、枯れ川となっていた今川に約8か月ぶり流れが戻った。災害復旧工事が終わったため、水がほしい時期に入る農業者や漁業者だけでなく、周辺住民も「やっと川らしい景観が戻った」と喜んでいる。(永井豊)

県が復旧 住民、景観復活喜ぶ

今川は同市千足で長良川から分流、岐阜市芥見の二級河川。水産確保の津保川と合流する。幅約1000年代から

昨夏 導流堤流失で枯れた長良川支流



災害復旧工事が終わり、川の流れが戻った今川(右側) 左は長良川本川—関市戸田

導流堤が建設されたが、昨年8月の出水で延長約2300mのうち上流寄りの68%と根元部分の土手も流失。本川の河床も洗掘れにより水位が下がり、流れが偏ったため今川は枯れ川状態になった。

復旧工事は県が総事業費2770万円を着工。堤流失部分と土手部分(延長48%)に100個を超える重量55tのコンクリート製根固めブロックを投入し土砂で埋めた。本川も最大2.8m下がった河床を埋め戻し、土砂が流失しないよう中小のブロック約320個を下流側に投入した。

今月8日、雨と雪解け水で増水した長良川の水が今川にも流れ、農地約6000㎡を潤す保戸島用水取水口も水が戻った。

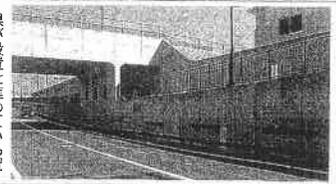
高架下冠水深さ二目で

豪雨教訓に 表示ライン設置へ
県管理21カ所

大雨のシーズンを前に、県は県管理道路のアンダーパス(高架下道路)が冠水した際、水位を知らせる「冠水表示ライン」を道路の壁際に引く作業を進めている。昨年七月の豪雨では可児市の市道でアンダーパスが冠水。車が動けなくなり、濁流にのまれて一人が死亡、二人が行方不明となった。県は「ラインを見て、日ごろから冠水する危険性を認識して」と注意を促す。(山本真嗣)

ラインを引く対象 県道路維持課による意味する。アンダーパスのあと、アンダーパスでは水深が24センチの水がたまる。通行止めを知らせる所のうち、冠水するおそれのある十九路線(二七路線七カ所)では、表示ラインが動かない。一辺では車が流し板の設置も進められている。ラインは実際の板の設置を六月上旬までに終える予定。

アンダーパスでは排水ポンプで冠水を防ぎ、対策をとっているが、集中豪雨時は排水が追いつかずに、急激に水位が増すおそれがある。同課の担当者は「水位が分からなければ、誤ってアンダーパスに入るときに、さらに



県が設置を進めている冠水表示ライン。可児市下恵土の県道で(県提供)

2011.04.16
岐阜新聞

2011.05.28
中日新聞

進んでしまうおそれがある。冠水時の水の深さを把握することが大切」と話している。

